

5 放射性物質の分布状況等調査データベース、放射線量等分布マップ拡大サイトの機能拡張と公開

齋藤 公明（原子力機構）

福島第一原発から放出された放射性物質による各調査における空間線量率、放射性核種の沈着状況等を詳細に確認できるようにすることを目的として、作成した放射性物質の分布状況等調査データベース及び放射線量等分布マップ拡大サイトを構築し、文部科学省が実施している様々なモニタリングの結果を広く公開することとした。

公開データの利用者は、空間線量率、放射性核種の放射能濃度等の分布状況を定性的に把握したい多くの一般的な利用者、及び数値データを用いて放射性物質の影響の解析、予測等を実施したい研究者の二つに分類されると推定される。

放射性物質の分布状況等調査データベースは、主として解析や予測を行う研究者からの要求に応えることを目的として構築されている。そのために、以下の機能を提供している。

- 定量的な分析を可能とするために、測定結果の一覧表示や詳細情報表示機能を提供するとともに、測定手法や分析手法に関する情報も併せて提供している。
- 研究者は一般にプログラム等を用いて測定結果を分析すると想定されることから、測定結果を纏めたファイルを、プログラムを用いた解析に適した形式で研究者の手元にダウンロードできる機能を提供している。

一方、放射線量等分布マップ拡大サイトは、主として一般的な利用者からの要求に応えることを目的として構築されている。そのために、以下の機能を提供している。

- 福島県及び近隣各県における空間線量率の測定結果、セシウム 134、セシウム 137、銀 110m 等の核種濃度測定結果、航空機や無人ヘリコプター、車を用いた空間線量率サーベイ結果等、数値データの表示だけでは把握困難な膨大な測定結果を可視化し、電子地図上に表示することで、分布の直観的な把握を支援する。
- その結果を自在に拡大・縮小表示する機能を提供している。これにより、福島県及び近隣各県における空間線量率や放射性核種の放射能濃度分布状況を大局的に把握可能とすると同時に、局所的な分布の特徴も詳細に確認することが可能となっている。
- 表示された測定点をマウスで指定することで、その地点における測定値が表示される。これにより、定性的な分布の把握だけでなく、測定結果の定量的な把握も可能となっている。

これら 2 つのシステムを提供することにより、いずれの利用者のニーズにも対応できるようになった。